

第 3 回審議会

水道ビジョンの次年度以降の 進行管理

令和3年11月 8 日
水道総務部水道経営室



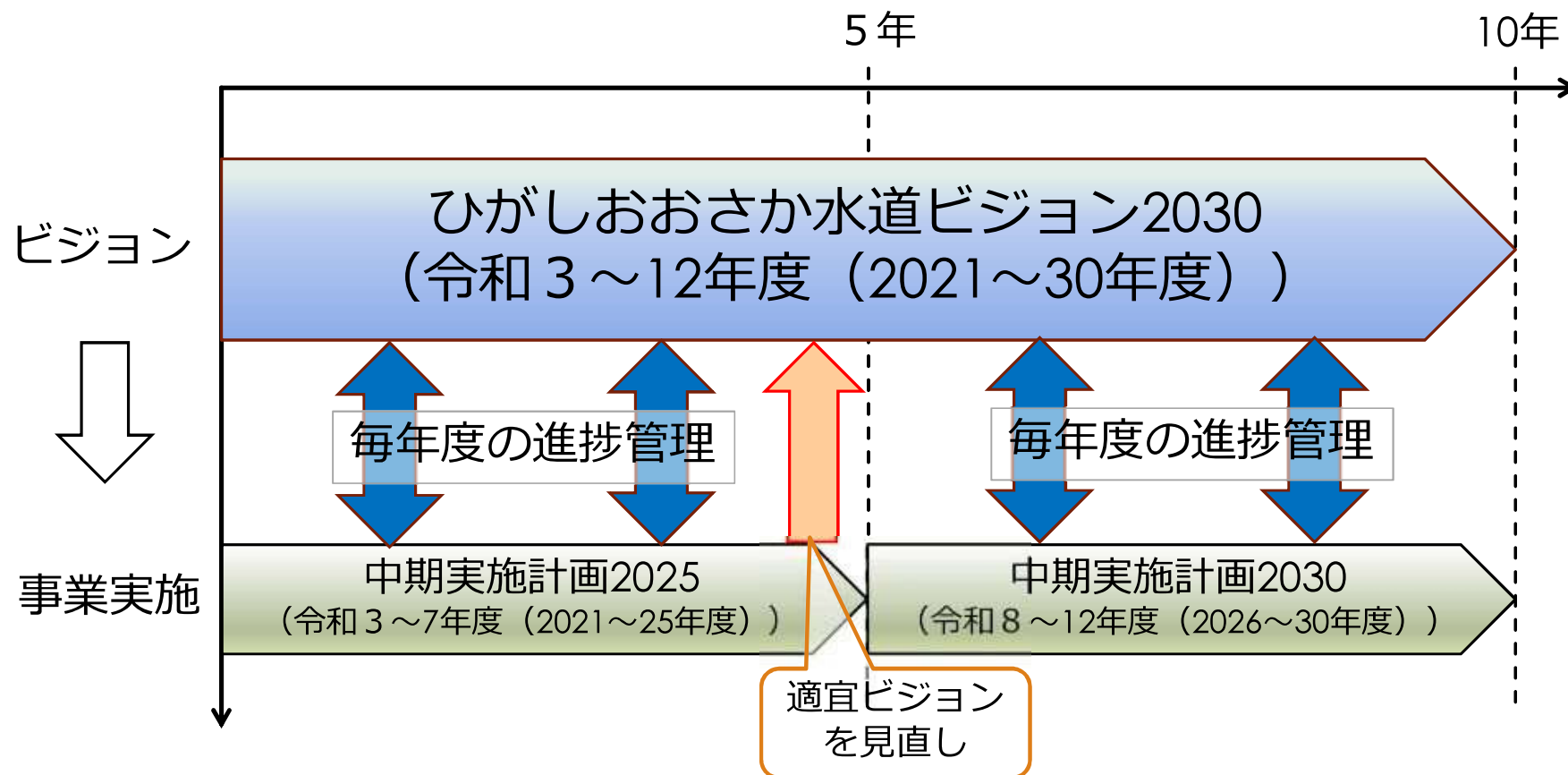
目次

1. 進行管理の考え方
2. 審議会での報告内容
3. まとめ

進行管理の考え方

《 水道ビジョン・中期実施計画 》

水道ビジョンの進行管理の考え方は、実行計画である中期実施計画により進行管理を行うことで、水道ビジョンで設定した施策を着実に実施します。

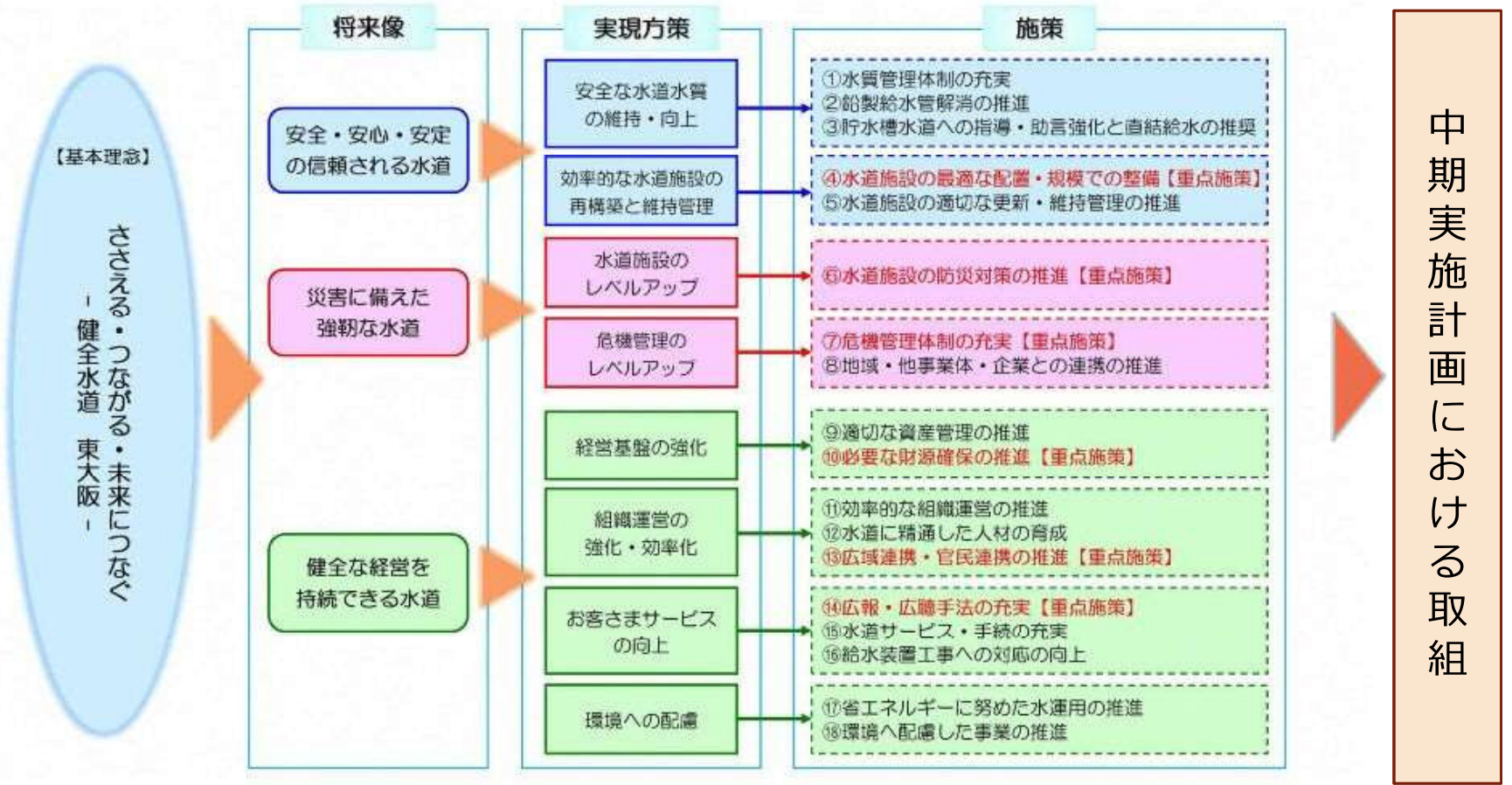


進行管理の考え方

※全体の一覧表については別紙

《 施策体系一覧 》

3つの将来像 8つの実現方策 18の施策 71の取組



進行管理の考え方

《 令和3年度以降の進行管理の流れ 》

各取組に対する局内での進捗評価を決定後、経営審議会にて報告します。審議会での意見等を、進捗評価や次年度の取組策定に反映させます。

時期	内容
前年度	中期実施計画に掲げる取組等を実施
当年度 6～7月	局内での進捗評価を決定
当年度 8月	経営審議会 <u>(決算報告・進捗管理報告に係る意見等)</u>
当年度 9月	進捗評価の確定
当年度 10～1月	次年度の予算編成作業
当年度 3月	次年度の取組策定

《 1. 令和3年度の進捗管理の総括 》

(1) 令和3年度 of 取組項目の進行状況

取組項目	○	△	×
71項目	51項目 (71.9%)	16項目 (22.5%)	4項目 (5.6%)

(凡例)		
	数値目標あり	数値目標なし
○	100%	予定とおり達成
△	100%未満	一部達成
×	0%	未実施

71取組項目における「○」「△」「×」の数を集計し、取組の達成度を可視化します

審議会での報告内容

《 1. 令和3年度の進捗管理の総括 》

(2) 重点施策の主な取り組みについて

重点施策

平成30年12月に実施された水道法改正の趣旨、本市水道事業における重点的な施策推進の必要性、近年の水道事業環境の変化に対する優先度を勘案して、18の施策のうち6つの施策を「**重点施策**」として位置づけます。

NO.	重点施策内容
施策④	水道施設の最適な配置・規模での整備
施策⑥	水道施設の防災対策の推進
施策⑦	危機管理体制の充実
施策⑩	必要な財源確保の推進
施策⑬	広域連携・官民連携の推進
施策⑭	広報・広聴手法の充実

審議会での報告内容

令和3年度の報告イメージ

《 1. 令和3年度の進捗管理の総括 》

(2) 重点施策の主な取り組みについて

施策⑥ 水道施設の防災対策の推進

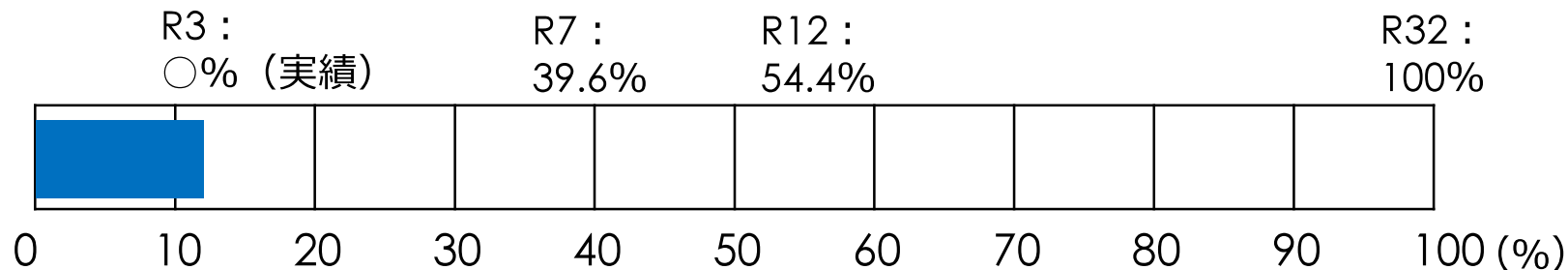
令和3年度の重点施策の
主な取組を報告します

重要給水施設配水管路の耐震適合率（取組No.25）

令和3年度実績：〇〇% ⇒ 令和7年度目標：39.6%

地震等災害時において、防災拠点活動・主要医療機関・指定避難所などの重要給水施設への給水を継続するために、供給ルート耐震化を進めました。

今後30年以内の耐震化完了を目標に耐震化を進めていきます。



《 1. 令和3年度の進捗管理の総括 》

(3) 21項目の管理指標（K P I）の実績

NO.	指標項目	前年度 (実績)	当年度 (実績)	中間目標 (R7)	最終目標 (R12)
1	水質基準不適合率 (%)	0.0	0.0	0.0	0.0
2	水安全計画の運用・改善	運用中	運用中	適宜改善	適宜改善
3	鉛製給水管率 (%)	8.4	7.6	5.5	3.1
4	小規模貯水槽水道点検率 (%)	---	---	80.0	100.0
5	配水池調査率 (%)	27.3	40.2	81.8	81.8

21項目の管理指標の実績を一覧表にして、当年度の達成度が分かるようにします

《 1. 令和3年度の進捗管理の総括 》

(4) まとめ

令和3年度は、ビジョン及び中期実施計画の初年度として
各取組を概ね順調に推進しました。・・・・・・・・

令和3年度における
進捗管理の総括のま
とめを記載します

《 2. 令和3年度における取組の進行状況と課題への対応 》

(1) 71取組項目の進行状況評価

基本理念	将来像	実現方策	施策	取組み項目数	取組み進行状況		
					○	△	×
安全・安心・水道の信頼される	安全・安心・水道の信頼される	① 安全な水道水質の維持・向上	① 水質管理体制の充実	5	4	1	0
			② 鉛製給水管解消の推進	4	2	1	1
			③ 貯水槽水道への指導・助言強化と直結給水の推奨	4	3	0	1
		② 効率的な水道施設の再構築と維持管理	④ 水道施設の最適な配置・規模での整備	4	3	1	0
			⑤ 水道施設の適切な更新・維持管理の推進	4	4	0	0

71取組項目における施策毎の進行状況を可視化します

計 71取組項目

[全体に占める割合]

51

71.9%

16

22.5%

4

5.6%

《 2. 令和3年度における取組の進行状況と課題への対応 》

(2) 18施策にかかる主な課題と今後の対応

実現方策1 安全な水道水質の維持・向上	
施策①	水質管理体制の充実
主な課題	
今後の対応	
施策②	鉛製給水管解消の推進
主な課題	

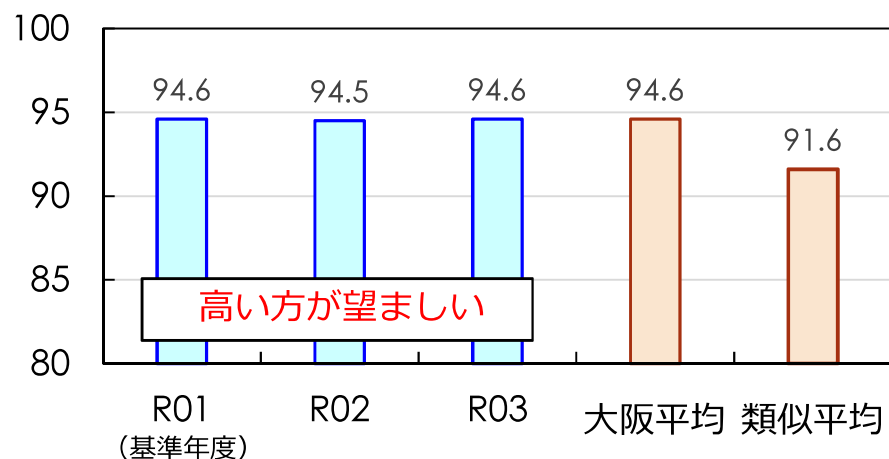
令和3年度における
取組の主な課題や今
後の対応を明確にし
ます

《 2. 令和3年度における取組の進行状況と課題への対応 》

(3) 21項目の管理指標 (KPI) による健全経営評価

⑦有収率 (%)

中間目標 (R07) : 95.0%
最終目標 (R12) : 95.0%



管理指標の経年変化の確認や他都市との比較により、健全経営が維持されているかという観点から評価を行います

■有収率

施設の稼働状況がそのまま収益につながっているかを示した指標です。

大阪平均と同程度で、類似団体平均よりも高いことから、無駄が少ない経営ができているため、今後も有収率の維持・向上に努めていく必要があります。

審議会での報告内容

《 3. 水道ビジョンに基づく財政状況のフォローアップ 》

1. 現状における財政状況

- 事業資金残高は、令和2年度決算において45億円の資金残高を確保しており、黒字決算であることから一定の健全経営を確保しています。
- しかし、事業の根幹収入である水道料金収入は減少傾向で、供給単価が給水原価を下回る状況が続く中でも老朽化施設の更新等が必要であり、厳しい経営状況が続いています。

2. 水道ビジョン計画期間中における財政状況

- 料金改定を行わなかった場合、令和7年度に収益的収支が赤字となることが見込まれます。
- 令和6年度および令和11年度に料金改定を行うことで、計画期間中の黒字決算および目標とする資金残高を維持します。

《 4. 経営審議会による事業進捗状況評価等 》

**審議会での取組報告を受けて、委員の皆様には事業進
捗状況等についてご意見をいただきます**

審議会での委員の皆様からのご意見を、取組の進捗
評価の確定や、次年度以降の事業運営に反映します

《 水道ビジョンの次年度以降の進行管理まとめ 》

- 水道ビジョンの進行管理の考え方は、水道ビジョンの実行計画である中期実施計画2025により進行管理を行います。
- 71の各取組に対する局内での進捗評価を決定後、経営審議会にて報告します。取組の進行状況や主な課題を明確にするとともに、管理指標（KPI）による健全経営評価を行うことで、ビジョンに掲げる目標の実現に向けて、どのように対応していくかを示します。
- 審議会でのご意見等を踏まえて進捗評価を確定し、次年度の取組策定に反映させます。



参考1

進行管理の方法

《 21項目の管理指標（KPI：①～⑦） 》

	指標項目	単位	指標の説明	指標の優位性	現状 (R1)	中間目標 (R7)	最終目標 (R12)
①	水質基準不適合率	%	給水栓での水質基準値に対する不適合割合。	↓	0.0	0.0	0.0
②	水安全計画の運用・改善	—	水質管理の運用状況に基づく対応措置・方法の改善度合い及び水質基準の改定等の状況変化への対応状況を表す指標。	—	運用中	適宜改善	適宜改善
③	鉛製給水管率	%	給水件数に対する鉛製給水管使用件数の割合を示すものであり、鉛製給水管の解消に向けた取り組みの進捗度合いを表す指標。	↓	8.4	5.5	3.1
④	小規模貯水槽水道点検率	%	5年以内に点検を実施した小規模貯水槽水道の件数の割合を示すもので、水道事業としての貯水槽水道への関与度を表す指標。	↑	—	80.0	100.0
⑤	管路更新率	%	管路の延長に対する更新された管路延長の割合を示すもので、管路更新の執行度合いを表す指標。	↑	0.68	1.00	1.00
⑥	配水池調査率	%	躯体コンクリートの劣化状況を調査した配水池の割合を示すものであり、健全性確保に向けた配水池調査の執行度合いを表す指標。	↑	27.3	81.8	81.8
⑦	有収率	%	年間配水量に対する有収水量の割合を示すもので、水道施設を通して供給される水量がどの程度収益に繋がっているかを表す指標。	↑	94.6	95.0	95.0

参考2

進行管理の方法

《 21項目の管理指標（KPI：⑧～⑭） 》

	指標項目	単位	指標の説明	指標の優位性	現状 (R1)	中間目標 (R7)	最終目標 (R12)
⑧	配水池の耐震化率	%	全配水池容量に対する耐震対策の施された配水池の容量の割合を示すもので、地震災害に対する配水池の信頼性・安全性を表す指標。	↑	48.7	52.4	52.4
⑨	管路の耐震管率	%	全ての管路の延長に対する耐震管延長の割合を示すもので、災害に対する水道管路網の安全性、信頼性を表す指標。	↑	15.8	19.9	24.3
⑩	基幹管路の耐震適合率	%	基幹管路の延長に対する耐震適合性のある管路延長の割合を示すもので、災害に対する基幹管路の安全性、信頼性を表す指標。	↑	33.5	53.2	65.3
⑪	重要給水施設配水管路の耐震適合率	%	重要給水施設への配水管の延長に対する耐震適合性のある管路延長の割合を示すもので、大規模な地震災害に対する重要給水施設配水管路の安全性、信頼性を表す指標。	↑	—	39.6	54.4
⑫	料金回収率	%	給水原価に対する供給単価の割合を示すもので、水道事業の経営状況の健全性を表す指標。	↑	97.3	100.0以上	100.0以上
⑬	料金収納率	%	1年間の水道料金総調定額に対して、決算確定時点において納入されている収入額の割合を示すもので、水道事業の経営状況の健全性を表す指標。	↑	98.8	維持・向上	維持・向上
⑭	給水収益に対する企業債残高の割合	%	給水収益に対する企業債残高の割合を示すもので、企業債残高が規模及び経営に及ぼす影響を表す指標。	↓	219.6	350.0以下	350.0以下

参考3

進行管理の方法

《 21項目の管理指標（KPI：⑮～㉑） 》

	指標項目	単位	指標の説明	指標の優位性	現状 (R1)	中間目標 (R7)	最終目標 (R12)
⑮	内部・外部研修時間	時間/人	職員一人当たりの内部・外部研修の受講時間を表すもので、技術継承及び技術向上への取組状況を表す指標。	↑	4.1	13.0以上	16.0以上
⑯	研究発表会における発表事例数	回/年	日本水道協会等の研究発表会における発表事例数を示すもので、技術継承及び技術向上への取組状況を表す指標。	↑	なし	複数回	複数回
⑰	インターネットによる情報の提供度	回	水道事業の情報発信回数を表すもので、お客様への事業内容の公開度合いを表す指標。	↑	129	向上	向上
⑱	水道に対する満足度	%	アンケートで水道に「満足」等と回答した人数割合を示すもので、お客さまの満足度を表す指標。	↑	63.5	向上	向上
⑲	建設副産物のリサイクル率	%	水道事業における工事などで発生する建設副産物のうち、再資源化（再使用・再生利用）された建設副産物の割合を示すもので、環境保全への取り組み度合いを表す指標。	↑	94.3	90.0以上	90.0以上
㉑	配水量1 m ³ 当たり電力消費量	kWh/m ³	配水量1 m ³ 当たりの電力消費量を示すもので、省エネルギー対策への取り組み度合いを表す指標。	↓	0.15	維持・低減	維持・低減
㉑	再生可能エネルギー利用率	%	全施設の電力消費量に対する再生可能エネルギーの利用の割合を示すもので、環境負荷低減に対する取り組み度合いを表す指標。	↑	0.08	向上	向上

進行管理の方法

《 中期実施計画進行管理シート 》

令和3年度進行管理シート イメージ

令和3年度 水産農業中期実施計画2025進行管理シート

取組No.	取組名	取組内容
取組1名	取組名	取組内容

■取組内容

5年間の取組内容

Plan

- 5年間の取組内容
- 取組の実施より期待される効果
- 取組のロードマップ
- 当該年度の具体的な取組内容

更新優先順位を考慮した更新箇所の設定	⇒	⇒	⇒	⇒
水管橋の点検・補修の検討	⇒	⇒	⇒	⇒
管路の計画的な維持管理に当たった方法・調査等の検討	⇒	⇒	中期実施計画2030策定における管路整備内容検討への活用	中期実施計画2030策定における管路整備内容の決定

■当該年度の具体的な取組内容

【管路更新率の段階的な引き上げ】
 ・当該年度における管路更新率目標を8,000mとして工事実施
 【更新優先順位を考慮した更新箇所の設定】
 ・管路更新計画を考慮した工事実施の選定（計画未定時期に決定したため当該年度は柔軟な対応による）

令和3年度 水産農業中期実施計画2025進行管理シート

■当該年度の進行状況

①実施

Do

- 当該年度の進行状況（実施内容）

②評価

目標	数値目標あり	数値目標なし
○	100%	予定通り達成
△	100%未満	一部達成
×	0%	未実施

③課題

Check

- 当該年度の進行状況（評価、課題・改善すべき点）

■今後の取り組みの進め方

Action

- 今後の取組の進め方

対応区分	継続	新設	廃止
	取組の推進しや改善を促す	当初新たに取組を開始する機会	取組を停止する機会

進行管理シート イメージ

取組No.	将来像	安全・安心・安定の信頼される水道
	実現方策	【実現方策2】効率的な水道施設の再構築と維持管理
取組18	施策	【施策5】水道施設の適切な更新・維持管理の推進
	取組項目	計画的な管路の更新・保全

■取組内容

5年間の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・アセットマネジメントによる管路更新率の段階的な引き上げ（R7年度：約1.0%）による100年間で全て更新されるサイクルの構築・推進 ・更新優先順位を考慮した管路の更新 ・管路の計画的な維持管理に向けた方法・調査等の検討による管路更新計画の見直し ・水管橋の点検・補修による維持管理の実施
----------	---

■取り組みの実施により期待される効果

取組み実施により期待される効果	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的な更新・維持管理及び管路の健全性把握により、水供給の安定性が向上するとともに、事故防止に寄与する
-----------------	--

■取り組みのロードマップ

(凡例) ⇒：継続

	R3	R4	R5	R6	R7
計画的な管路の更新・保全					
管路更新率の段階的な引き上げ 約0.82%		⇒ 約0.85%	⇒ 約0.90%	⇒ 約0.95%	⇒ 約1.00%
更新優先順位を考慮した更新箇所の選定		⇒	⇒	⇒	⇒
水管橋の点検・補修の検討		水管橋の点検・補修の実施	⇒	⇒	⇒
管路の計画的な維持管理に向けた方法・調査等の検討		⇒	⇒	中期実施計画2030策定における管路整備内容検討への活用	中期実施計画2030策定における管路整備内容の決定

■当該年度の具体的な取組内容

<p>【管路更新率の段階的な引き上げ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当年度における管路布設延長目標を約8,600mとして工実施 <p>【更新優先順位を考慮した更新箇所の選定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管路更新計画を考慮した工事場所の選定（計画未策定期間に決定したため当年度は柔軟な対応による）
--

進行管理シート イメージ

■ 当年度の進行状況

① 実施内容

② 評価

○	目標	数値目標あり	数値目標なし
	○	100%	予定通り達成
	△	100%未満	一部達成
	×	0%	未実施

③ 課題・改善すべき点など

■ 今後の取り組みの進め方

対応区分	継続	新設	廃止
	取組の見直しや改善を含む	別に新たに取組を追加する場合	取組を廃止する場合